



生駒市  
協創対話  
窓口



生駒市  
協創対話窓口  
ホームページ

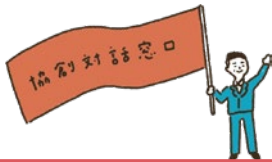
# 生駒市 協創対話 レポート

公民連携のワンストップ窓口

IKOMA CO-CREATION  
DIALOGUE DESK



2026年3月発行



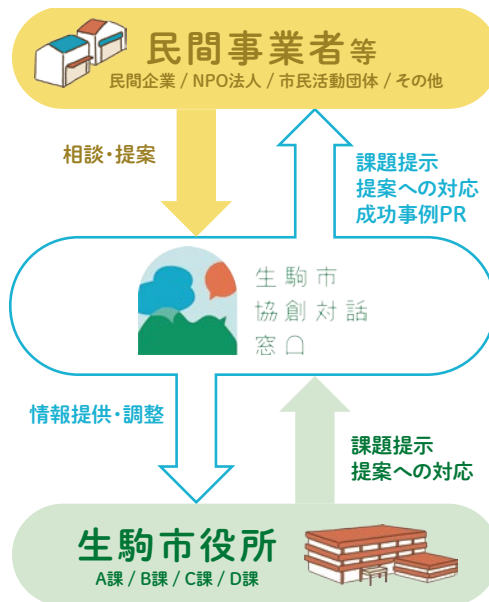
# 生駒市協創対話窓口

## はじめに

少子高齢化、見えない孤独・孤立、空き家問題等の地域の課題は複雑に絡み合い、一方だけではなく他方にも視線を配りながら解決していく必要があります。そのため、自治体は、各部署が民間事業者・学術機関等と連携しながら課題を解決していくことが求められています。

## 協創対話窓口の設置と役割

生駒市では、民間事業者等と行政が対話による相互理解を進め、アイデアを持ち寄り、互いの強みを掛け合わず協創によって、地域課題の解決と民間の取組促進に繋げるため、公民連携の提案窓口「生駒市協創対話窓口」を設置しています。民間事業者等と、対応する市役所内の部署との間に入り、提案を受け付けて調整する機能や、対話の伴走を行う機能等を担います。



## 協創で目指すもの

民間事業者等はビジネスや各団体固有の目的達成を目指す一方、自治体は地域の課題解決を目指しているため、そもそものベクトルは違います。協創により、双方の知見を掛け合わせ、互いにWin-Winな状況を実現することで、二つのベクトル間に新たなベクトルを生み出し、その先に市民にとってのウェルビーイングな未来を目指します。



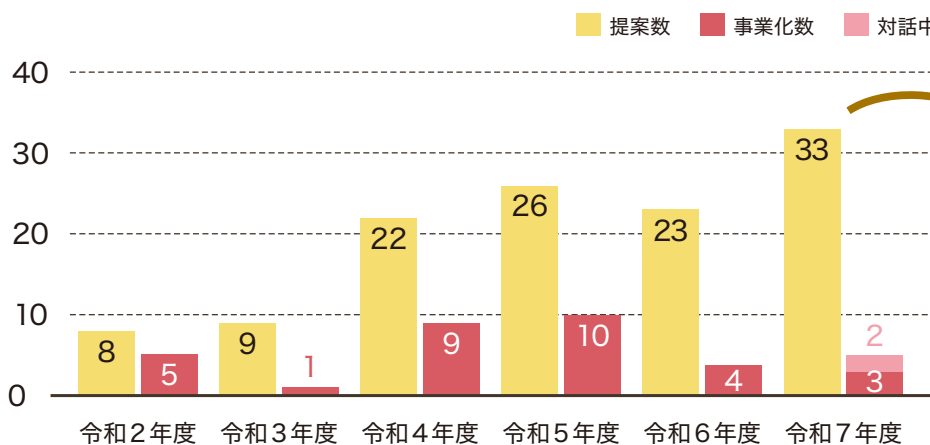
## 提案方法

協創対話窓口が受け付けている提案方法は右の2種類です。(2026年3月現在)

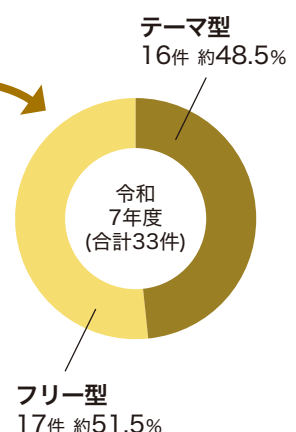
- フリー型** 民間事業者等が生駒市との連携を希望する事業やアイデアなどを、テーマを問わず自由に提案できる。
- テーマ型** 生駒市が抱える特定の地域課題に関するテーマを示し、そのテーマに対する連携事業の提案やアイデアなどを民間事業者等から募集する。

## これまでの連携実績

提案件数等の推移 ※2026年2月時点



提案方法の割合





# 1

## テーマ型 獣害対策

農家が「農業」に集中できるようにしたい！

# 捨てられる「麻袋」を、 里山を守る盾にする

オールサム有限公司(奈良県生駒市) × 生駒市農林課



設置した麻袋に「木タール」を染み込ませる様子。独特のニオイで有害鳥獣を忌避させます。

## MATCHING

### 連携事業者



ALL THUMBS

#### オールサム有限公司 (2000年4月設立)

- 家庭用雑貨品輸入および国内販売
- 脱ブラの一環として、竹製の柄を採用した竹歯ブラシを販売開始
- 実際に麻袋から作ったプランターや苗ポットをイベントや教育機関に提供。「捨てていたゴミを再利用できる」体験を広げる



(ホームページ)

### 生駒市の課題

- イノシシによる農作物被害を解消したいが、新しい対策を講じられていない
- 従来の金属製の柵は設置に手間がかかり、景観も損ねてしまう
- 農家の皆さんが獣害対策に時間を取られず、農業そのものに集中できる環境を作りたい

生駒市の農家にとって、イノシシによる農作物被害は切実な問題です。しかし、従来の金属製の柵は設置に手間がかかり、景観も損ねてしまうという課題がありました。農林課の担当者も「獣害対策に時間を取られず、農業そのものに集中してほしい」と頭を悩ませていました。

手を挙げたのは、市内でペット用品や雑貨製造を行うオールサム有限公司。同社の遠藤さんは、コーヒー豆の輸入に使われた後に大量廃棄される「麻袋」の活用法を模索していました。「天然素材で土に還る麻袋を、獣害対策に使えないか？」木タールやカプサイシンを染み込ませた麻袋を設置する、安価でエコな対策案が生まれました。

#### 公民連携担当からのコメント

麻袋を活用した獣害対策は、斬新でおもしろいアイデアでした。実証実験中はオールサム様と密に連携を取りながら、イノシシによる被害が確認される度、試行錯誤しながら木タールの濃度を変えたり麻袋を設置し直したりと、改善を重ねました。実用化に向けた今後の展開を楽しみにしています。

# START



もともと弊社は、ペット用のおもちゃや100円均一向けの雑貨を製造している会社です。培ってきた低コスト製造のノウハウがある中で、大量の麻袋を入手できる機会に恵まれたのが転機となりました。麻袋は通常、コーヒー豆の輸入に使われた後は廃棄されてしまうものです。これを再活用できないかと相談をいただいた際、天然素材で「土に還る」という強みを活かせば、山や畑での獣害対策に役立てられるのではないかと考えました。



「麻袋で本当に大丈夫かな？」という心配はありました。ただ、いつものような獣避けの柵は見た目も悪く、設置に手間もかかるので、もし麻袋で対応できるのであれば画期的だと思いました。



麻袋の固定に竹串を使用。すべて天然素材なので、数年後すべて土に還ります。



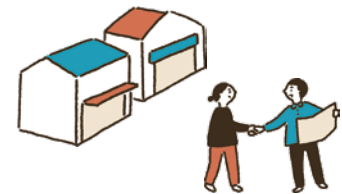
「木タール」は木材を酸素がない状態で熱分解した際に木材からにじみ出る液体。天然の忌避剤としても利用されており、イノシシ、シカ、モグラ等に忌避効果があるほか、雨に強く60日ほど効果が持続します。

# PROCESS 行政との連携で得られた「信頼」と「場所」



事業者と行政が継続的に経過を見守り、農家が「農業」に集中できる市を目指します。

小さな家族経営の会社にとって、実証実験のフィールド確保は高いハードルでしたが、協創対話窓口を通じてスムーズに連携が実現。「麻袋で本当に大丈夫か？」という当初の懸念もありましたが、設置の手軽さと、使用後は土に還るといった環境負荷の低さが評価されました。「行政が定期的に見守ってくれる安心感」も、事業継続の大きな支えとなっています。



## よかった点

- 家族経営の会社では難しい、実証実験の場や協力を得ることができた。
- これまでは市民課しか利用しなかったが、協創対話窓口の利用を通じ、行政のイメージを変えることができた。
- 設置後も定期的に見守ってもらえるので、安心して事業を継続することができた。



## 感想

民間の方に入っていただくことで、新しい視点が見つかりました。ゼロから事業を始めるのは役所だけだと時間がかかりますが、協創対話窓口を通すことで連携もスムーズに助かりました。今回導入した対策は、天然素材で土に還り、手間もかかりません。まだまだ改善は必要ですが、このような獣害対策がもっと広がればいいなと思います。

## 協創で生まれたもの

### 「エコな獣害対策」成功モデルの第一歩

費用や手間、景観への影響。従来の獣害対策はこうした現代の課題に加え、古くなった資材の廃棄という未来の課題も抱えています。こうした課題を解決し農業を持続可能にするためには、行政の信頼性や地域ネットワーク、民間の持つイノベーション力を掛け合わせた、柔軟な対策が必要になります。オールサム有限会社が提案した「麻袋」の活用は、安価で設置が楽、そして使用後は土に還るといった画期的な対策であり、地域の切実な課題解決と、脱プラスチック、ゴミの再利用という環境価値の創造をもたらしました。行政による実証実験の場と安心して事業を継続できる環境が得られたことで、安価でエコな獣害対策が生駒市内外へと広がり、持続可能な地域課題解決の成功モデルとなることが期待できます。

※2026年2月時点の情報を掲載しています。

# 2

## テーマ型 鳥獣被害対策

ドローンで機会格差をなくしたい!

# 急傾斜地に挑む。 ドローンが切り拓く 有害鳥獣被害対策

株式会社 skyer(鳥取県西伯郡) × 生駒市農林課



事業者と行政が継続的に経過を見守り、農家が「農業」に集中できる市を目指します。

## MATCHING

### 連携事業者

株式会社 skyer(2016年8月設立)

- ドローンパイロット育成スクール
- 空撮動画受注作成
- 地方出身者として実体験した「地域間の機会格差」を解消すべく、最新テクノロジーの普及を志して株式会社 skyer を設立
- 現在はドローンパイロットの育成スクールの運営や導入支援事業を展開している



(ホームページ)

### 生駒市の課題

- 耕作放棄地と隣接する農地や斜面地にある農地は、鳥獣被害対策を行いたくても行えない
- 農地が入り組み、畑や田んぼが点在しているため、車や徒歩による見回りや対策が難しい

生駒市では急傾斜地に点在する農地が多く、従来の徒歩や車両による見回りでは鳥獣被害対策に物理的な限界がありました。

「鳥獣被害対策で困っている地域の力になりたい」と応募したのが、ドローンソリューションを手掛ける株式会社 skyer (スカイヤー)。ドローンを活用した追い払いや生息域調査により、人が立ち入れない場所でも効率的に対策を行う提案を行いました。

### 公民連携担当からのコメント

ドローンを用いた有害鳥獣被害対策は生駒市初の試みで、不安とわくわく感が入り混じった気持ちで実証実験に取り組みました。ドローンで映した映像は想像以上に鮮明で、イノシシの追い払いに加え、数や生息域を把握できたことは大きな収穫でした。実証実験のためにわざわざ鳥取から生駒市まで来てくださった skyer 様に感謝いたします。

# START



弊社の技術を鳥獣被害対策に役立てたいと考えていた際、生駒市が課題解決に向けたパートナーを公募していることを知り、本プロジェクトに応募いたしました。現在、兵庫県丹波篠山市等においても同様の対策に取り組んでおりますが、本事業の核心は「ドローンによる追い払いの有効性」を客観的な数値で検証することにあります。生駒市での実践は、その有効性を実証するための極めて重要な機会と捉えています。ドローンによる鳥獣被害対策は兵庫県丹波篠山市などでも進行中ですが、ドローンによる追い払いの有効性を数値化・検証している段階です。今回の生駒市での取り組みも、その有効性を検証する貴重な機会だと思っています。



私たちだけでは解決できない農家の課題を解消したいと思い、協創対話窓口を使いました。急斜面の農地が多い場所でも、ドローンであればスピーディに取り組めるので、挑戦することにしました。



ドローンに搭載されているスピーカーで威嚇音を出し、鳥獣を追い払うことも可能です。

# PROCESS 熱意がつかないだ、地域ぐるみの「生駒モデル」



ドローンのカメラ映像を車内モニターから確認する地域の皆さん。上空から捉えた景色がリアルタイムで鮮明に映し出されています。



上空に飛び立つドローン。赤外線カメラによる夜間検知で鳥獣の行動範囲を可視化し、スピーカー搭載ドローンで効率的な鳥獣被害対策を実現します。

ドローンという新しい技術に対し、「危ないもの」と敬遠される懸念もありましたが、職員の調整もあり、地域住民の理解をスムーズに獲得。住民協力のもと、実証実験が進められています。今後は効果を数値化・検証し、イノシシなどによる鳥獣被害を減らし、持続可能な「生駒モデル」の構築を目指します。



## よかった点

- 地域の方々のご協力を得られ、本当にありがたかった。
- ドローンを『危ないもの』と敬遠する地域もあるが、生駒市では説明会での理解もスムーズだった。
- 行政担当者の方々の、課題解決に対する強い「熱意」を肌で感じることができた。
- 熱意が住民の皆様との対話の場を生み、ドローンという新技術に対する心理的なハードルを下げ、スムーズな理解獲得に繋がったのだと確信している。



## 感想

ドローン飛行での有害鳥獣対策は生駒市ではこれまで経験がなく、職員・住民ともに機械自体の性能や飛行に必要な届け出など不明点が多かったのですが、skyer様が一つ一つ丁寧に疑問を解消してくださり、安心して飛行実施日を迎えることができました。自治体のみでの力では年度途中でこのような成果を上げることは困難だったと思うので、貴重な経験を積みしてもらったとともに、今回の成果を次回に生かしていきたいと思っております。

## 協創で生まれたもの

### 高齢化の重荷を救う 「人手を頼らない鳥獣被害対策」

『2020年農林業センサス※』によると、生駒市の農業従事者の平均年齢は70歳に迫り、担い手不足が深刻な局面を迎えています。特に急傾斜地での鳥獣被害対策は高齢者にとって限界に近い重荷となっており、市の組織力と企業の技術を融合した「人手に頼らない鳥獣被害対策」が不可欠となっています。解決の切り札として期待されるドローンは、人が1時間かけて歩く険しい地形も、上空からわずか数分でパトロール可能です。バッテリーによる稼働時間の短さや、強風・降雨時の飛行制限といった課題も残りますが、制約を理解した上で、赤外線カメラによる夜間調査などの強みを適材適所で活用することが現場の負担軽減への近道となります。高齢化が進む地域農業において、最先端技術で「人の手」を補完する。これが持続可能な鳥獣被害対策の鍵となります。

※出典：農林水産省「2020年農林業センサス」

※2026年2月時点の情報を掲載しています。



生駒市役所  
地域活力創生部  
SDGs・公民連携推進課

.....  
〒630-0288  
奈良県生駒市東新町8-38  
TEL 0743-74-1111